

平成 21 年 6 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18320042
 研究課題名（和文） 室町期における下賜・献上・進上本の基礎的研究
 研究課題名（英文） The Fundamental study on books as present from high classes (KASHI-bon) and as tribute for high classes (KENJOU-bon, SHINJO-bon) in Muromachi period
 研究代表者
 前田雅之 (MAEDA MASAYUKI)
 明星大学・日本文化学部・教授
 研究者番号：00209389

研究成果の概要：室町期の 15 世紀について、書物の移動データベースを作成し、他の論文四編を加えた研究成果報告書を平成 21 年 3 月に制作・刊行した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	3,600,000	0	3,600,000
2007 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	5,800,000	660,000	6,460,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：下賜本・進上本・献上本・古典・室町期

1. 研究開始当初の背景

従来の諸本研究は、一テキストの原本や伝流ばかり気にかけており、当該テキストを越えた古典的書物が誰から誰へ移動したか、伝来したかという観点で古典を見るという認識をもたなかった。本研究は、古典的書物の移動をとりわけ天皇家・将軍家からの下賜、反対に天皇家・将軍家に対する献上・進上という点に注目して、古典がいかにかに定着し、かつまた、いかに流布していたかを押さえることで、古典的文化、あるいは、前田がいう古典的公共圏の実態を浮き彫りにしようと考えたことが当初の背景にあった。

2. 研究の目的

室町期において将軍家・天皇家から下賜する、あるいは、その反対に、将軍家・天皇家に進上・献上された古典的書物のデータベースを作成し、古典がいかにかに存在し、いかに移動したかを解明しようとした。これが 1 でも述べた背景に基づく本研究の暑気目的である。

だが、実際に文庫調査や記録類の調査が進展するにつれて、下賜・献上／進上本だけでは、研究目的を十二分に達成できないと判断し、書物移動自体のデータベースを作成する方が研究の初期の目的にかなうと判断し、書物の移動ということ自体に範囲を広げて調

査することになった。但し、今度はあまりに数量が多くなり、やむなく 15 世紀に限定した。

3. 研究の方法

15 世紀の記録・日記類（『看聞日記』・『実隆公記』等）にみられる書物移動記事、各種文庫等に所蔵される写本の奥書類、『弘文荘待賈古書目』といった目録類等に見られる同類の叙述を調査・収集し、データベースの基礎資料とした。

併せて、随時、研究会を開催し、調査方法、データベースの作り方、調査範囲等について検討を繰り返した。

4. 研究成果

上記にあるように、研究報告書を制作・刊行した。15 世紀の全データは約 1800 件であった。

とはいえ、課題はあまりに多い。なんといっても、書物の範囲を拡大したために、15 世紀分しかデータベースが作成できなかったことは最大の反省点としてあげられるだろう。今後、機会を見て、調査の対象を 14 世紀半ばから 17 世紀初頭にまで拡大し、室町期というに適しい時代範囲で改めて書物の移動データベースを再構築し、書物の移動から見た古典のありようから古典的公共圏の実態を解明したく考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 40 件）

前田雅之「記憶・連想・アナロジー——前近代日本における古典知の機構——」（『文学』、2006 年 5・6 月号、平成 18 年 5 月）

前田雅之「秘伝書の情報学」（『日本文学』、平成 20 年 1 月）

前田雅之「和語を和語で解釈すること——丈兼良における注釈の革新と古典的公共圏——」（『文学』、2008 年 5・6 月号、平成 20 年 5 月）

前田雅之「シンポジウム「和歌と説話一言語的位相差をめぐって」覚書」（『説話文学研究』43、平成 20 年 7 月）

錦仁「和歌における州浜と庭園」（『文学』2006 年 5・6 号、平成 18 年 5 月）

錦仁「特集百人一首のなぞ 「百人一首へ、そして「百人一首」を越えて一案内を兼ねて」

（『国文学』760、平成 19 年 12 月）

錦仁「旅人・堀秀成の発見」（『日文研』40、平成 20 年 3 月）

錦仁「地誌を生みだす和歌—藩主の地名変更をめぐって」（『文学』2008 年 5・6 月号、平成 20 年 5 月）

千本英史「増賀上人行業記についてチェスタービーティライブラリー本を中心に」（『叙説』33、平成 18 年 6 月）

千本英史「『今昔物語集』永遠の未完成の魅力」（『国文学解釈と鑑賞』72 巻 8 号、平成 19 年 8 月）

千本英史「「孫文」と「熊楠」の間に横たわるもの」（『孫文研究』43 号、平成 20 年 3 月）

千本英史「画像 DB の現状と説話文学研究」（『説話文学研究』43 号、平成 20 年 7 月）

千本英史「比較研究から東アジアを基盤とする研究へ—楠葉西忍は『今昔物語集』を読んだか」（『アジア遊学』114、平成 20 年 9 月）

渡部泰明「頓阿論」（『文学』7 巻 3 号、平成 18 年 5 月）

渡部泰明「『千載和歌集』—中世の虚構と現実」（『国文学解釈と鑑賞』72 巻 5 号、平成 19 年 5 月）

渡部泰明「九相詩の和歌をめぐって」（『説話文学研究』42 号、平成 19 年 7 月）

渡部泰明「表現論—掛詞・縁語をどう考えるか」（『国文学』12 月臨時増刊号、52 巻 16 号、平成 20 年 5 月）

渡部泰明「「しらべ」論の根拠」（『古代文学』47 号、平成 20 年 3 月）

渡部泰明「古今伝授の想像力—『古今和歌集』二度聞書・『古聞』を読む—」（『文学』2008 年 5・6 号、平成 20 年 5 月）

小川剛生「寵臣から見た足利義満—飛鳥井雅縁『鹿苑院殿をいためる辞』をめぐって」（『ZEAMI』4 号、平成 19 年）

小川剛生「禁裏本・禁裏文庫について—高松宮（有栖川宮）本を中心に」（『語文（日本大学国文学会）』129、平成 19 年）

小川剛生「南北朝の政治と文化—二条良基と足利義満の和漢聯句」（『教育研究プロジェクト特別講義』11（総合研究大学大学院文化科学研究科）、平成 19 年）

小川剛生「下冷泉家の成立—持為をめぐって」（『季刊ぐんしょ』73、平成 18 年）

小川剛生「冷泉為和と戦国大名」（上）（『しぐれてい』102、平成 19 年）

小川剛生「冷泉為和と戦国大名」（下）（『しぐれてい』103、平成 20 年）

小川剛生「天津平野神社蔵『某相伝文書書籍等目録断簡』考証—南北朝期飛鳥井家の歌道蹴鞠文書目録か」（当該研究報告書）

（研究協力者）

岡崎真紀子「連想をよびおこす音—『散木奇歌集』における掛詞的表現をめぐって—」（『文学』、2006 年 5・6 号、平成 18 年 5 月）

岡崎真紀子「『釈教』の詩学—『新撰菟玖波集』卷十八の配列をめぐる—」(『国語と国文学』、平成19年10月)

岡崎真紀子「院政における説話と題詠—源俊賴を中心に—」(『説話文学研究』43号、平成19年7月)

原克昭「中世神道説をめぐる〈類聚〉」(『神道宗教』202号、平成18年4月)

原克昭「『麗気記』をとりまく撰者たち—註釈のなかで屹立する《神典》—」(『文学』、2006年5・6号、平成18年5月)

原克昭「『日本書紀』進講史・断章—「日本紀の家」盛衰記—」(『文学』2008年5・6月号、平成20年5月)

那須陽一郎「『訳和和歌集』所収歌他出一覧」(『日本文学大学院国文学専攻論集』2号、平成19年9月)

鹿野しのぶ「冷泉家時雨亭文庫蔵『和歌書様』『和歌会次第』について」(『語文』125、平成18年6月)

鹿野しのぶ「『和歌書様』『和歌会次第』の書写に見る冷泉為秀の〈家説〉形成の過程」(『和歌文学研究』93、平成18年12月)

鹿野しのぶ「今川了俊の歌論書における「師説」享受の様相—「万葉語」を中心に—」(『語文』128、平成19年6月)

鹿野しのぶ「歌会の次第と記録—冷泉家時雨亭文庫蔵「和歌所九十賀次第」を中心に—」(『国語と国文学』85巻1号、平成20年1月)(報告書再掲)

鹿野しのぶ「『年中行事歌合』における冷泉為秀の判について」(『語文』130、平成20年3月)

[学会発表](計2件)

前田雅之「三国の変貌」(説話文学学会大会、平成20年6月)

小川剛生「禁裏本・禁裏文庫について」(日本大学国文学会大会、平成18年7月)

[図書](計12件)

前田雅之「国文学に「偉大な敗北」はあるか—人文学の総崩壊を目前にして—」(松澤和宏・田中実編『これからの文学研究と思想の地平』、右文書院、平成19年7月)

前田雅之「「南」・「北」の邂逅」(『中世文学の回廊』、勉誠出版、平成20年3月(共著))

前田雅之「放り出された「古事」—『古事談』と古典的公共圏」(浅見和彦編『『古事談』を読み解く』、笠間書院、平成20年7月)

前田雅之「三国観」(小峯和明編『今昔物語集を読む』、吉川弘文館、平成20年11月)

錦仁「『和歌の思想・言説と東北地方における芸能文書との影響・交流についての研究—和歌における〈外部〉とは何か—』(平成17~19年度科学研究費補助金・成果報告書、代表研究者 錦仁、平成20年5月)

錦仁「『説話文学論集』17集(共著、清文堂、平成20年5月)

錦仁「資料と考察—新潟県その他の西行伝説と『管江真澄全集』の西行関連記事」(『西行伝説の説話・伝承学的研究』、平成17~19年度科学研究費補助金・成果報告書 研究代表者西澤美仁、平成20年3月)

千本英史「松島への旅—『清少納言松島日記』覚書」(『説話・伝承学の脱領域』、岩田書院、平成20年4月)

千本英史「京と地域・辺境」(『今昔物語集を読む』、吉川弘文館、平成20年12月)

千本英史「近世の今昔物語集発見」(『今昔物語集を読む』、吉川弘文館、平成20年12月、共著)

渡部泰明「歌徳説話の和歌」(『説話の界域』、笠間書院、平成18年7月、共著)

渡部泰明「その後の万葉集 源実朝を例にして」(古橋信孝編『万葉集を読む』、吉川弘文館、平成20年9月)

小川剛生「武士はなぜ歌を詠むか 鎌倉將軍から戦国大名まで」(角川選書、平成20年)

小川剛生「宮内庁書陵部蔵『叙位儀次第』(管見記題五軸)紙背文書について」(田島公編『禁裏・公家文庫研究』第二輯、思文閣出版、平成18年)

小川剛生「乱世の宮廷と歌人たち—南朝を中心に—」(国立歴史民俗博物館編『和歌と貴族の世界』、花輪書房、平成18年)

小川剛生「高松宮家伝来の禁裏文書について—室町後期より江戸前期にいたる「官庫」の遺物として—」(研究調査報告1、人間文化研究機構連携研究・文化資源の高度活用「中世近世の禁裏の蔵書と古典学の研究」年次報告書、平成19年)

小川剛生「古歌の集積と再編—『扶桑葉林』から『夫木和歌抄』へ—」(夫木和歌抄研究会編『夫木和歌抄 編纂と享受』、風間書房、平成20年)

(研究協力者)

岡崎真紀子「『やまとことば表現論—源俊賴へ—』(笠間書房、平成20年)

岡崎真紀子「『慈円難波百首全釈』(慈円和歌研究会編、風間書房、平成21年2月、共著)

岡崎真紀子「『三宝絵』序再読—源為憲における和・漢・仏—」(小島孝之・小峯和明編『三宝絵を読む』、吉川弘文館、平成20年2月)

岡崎真紀子「和歌における〈内部〉・〈外部〉・〈周縁〉—院政期歌人の言語意識」(『和歌の思想・言説と東北地方における芸能文書との影響・交流についての研究—和歌における〈外部〉とは何か—』(平成17~19年度科学研究費補助金(萌芽研究)研究成果報告書、平成20年3月)

岡崎真紀子「『源氏物語』と宗祇の連歌論—〈われ〉のありか—」(小嶋菜温子・渡部泰明編『源氏物語と和歌』、青簡舎、平成20年12月)

原克昭『伊勢二所太神宮神名秘書』『伊勢二所太神宮神名秘書・大和葛城宝山記』『神祇秘鈔』解題（科研報告書・研究代表者・阿部泰郎『中世寺院の知的体系の研究—真福寺および勸修寺聖教の復元的研究』、平成18年3月）

原克昭「〈中世神話〉の世界」「もっと知りたい人のために—中世—」（荻部直・片岡龍『日本思想史ハンドブック』、新書館、平成20年3月）

原克昭「思想史文献としての《神代卷抄》—生成と再生—」（阿部泰郎編『日本における宗教テキストの諸位相と統辞法』「テキスト付置の解釈学的研究と教育」第四回国際研究集会報告書、名古屋大学大学院文学研究科、平成20年度）

那須陽一郎「藤原定家資料のデジタルアーカイブ—『明月記』『大斎院前の御集にうちて』（『デジタルアーカイブの高度利用—[日本大学文理学部の取り組み]』、日本大学文理学部、平成19年7月）
〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前田雅之 (MAEDA MASAYUKI)
明星大学・日本文化学部・教授（前、東京家政学院大学教授）
研究者番号：00209389

(2) 研究分担者

錦仁 (NISHI HITOSHI)
新潟大学人文社会・教育科学系教授
研究者番号：00125733
千本英史 (CHIMOTO HIDESHI)
奈良女子大学・文学部・教授
研究者番号：50188489
渡部泰明 (WANABE YASUAKI)
東京大学・人文社会系研究科・教授
研究者番号：60191813
小川剛生 (OGAWA TAKEO)
国文学研究資料館・文学資源研究系・准教授
（現、慶應義塾大学文学部准教授）
研究者番号 30295117

(3) 研究協力者

岡崎真紀子 (OKAZAKI MAKIKO)
成城大学・非常勤講師（現、静岡大学人文学部准教授）
原克昭 (HARA KATSUAKI)
早稲田大学非常勤講師
那須陽一郎 (NASU YOUICHIROU)
日本大学文理学部ポスドク（現、日大藤沢高校非常勤講師）
鹿野しのぶ (SHIKANO SHINOBU)
日本大学文理学部大学院生（現、日本大学経済学部非常勤講師）